

海洋政策文化学科 総合入試 出題意図

漁業・水産業の社会経済的な状況や諸課題を把握し、多角的かつ論理的な思考をすることで、実践的で具体的な解決方法を提示できるかを判断し、海洋政策文化学科での学習の適性を審査する。

解答例

問 1

(例)

持ち主のいない無主物であり、経済的価値がある物すなわち魚を採捕・漁獲して所有物にし、値段のある生産物にかえる作業。(57 字)

問 2

(例)

漁業は魚の朝マズメや光に集まる性質を利用して魚群を作り夜間操業を中心に成り立ち、また魚は腐り易く短時間で値段を決めて取引をしなければならないため、朝、漁船と魚が集まる漁港で経済活動が行われるから。(98 字)

問 3

(例)

漁港は集落、漁場、市場を結ぶ生産と生活空間であると同時に、漁村と区切ることのできない祭や集いの場の役割をもつ。この両面の役割は、空間としても人々にとっての漁港の意味においても分離できず、漁村と漁港の発展は互いに不可分であると考え。(116 字)

問 4

(例1) 経済

漁村と漁港は、漁業・生産・流通を不可分に結びつける関係にあるとともに漁村の人々が生業と文化を育む空間である。私は将来的に漁村と漁港の経済活動の発展が望ましく、その支援策が必要と考える。なぜなら経済活動が活発であることが魚市場や祭が賑わい人の集う前提だからである。近年は高齢化や漁村の高齢化、過疎化が課題であることを地元で見ており、この場合、文化的活動に力をいれても、その文化は漁師が作り魚市場は漁業で成り立つことから漁業が発展の基盤である。したがってまず漁業を中心に、漁船、設備、漁法、漁場の改善、漁師になる教育、漁業という生産労働の仕組みを支援して漁業を振興することが漁村と漁港の発展に必要である。

(300 字)

(例2) 文化

漁村と漁港は、漁業・生産・流通を不可分に結びつける関係にあるとともに漁村の人々が生業と文化を育む空間である。私は将来的に漁村と漁港の文化的な発展が望ましく、その支援策が必要と考える。なぜなら漁業は自然制約が大きく、生産労働、経済活動が左右される。近年は高齢化や漁村の高齢化、過疎化が課題であることを地元で見ており、この場合、抜本的なてこ入れの効果はすぐには生じない。しかし漁業や漁師が作ってきた魚市場や祭の賑わい、人の集う場所としての漁村と漁港の価値や文化を外部に発信して観光客を誘致し、様々な活動の1つの重要な生産、労働、文化的な活動として漁業を振興することが将来の漁村と漁港の発展として望ましい。(300字)